

10. 名張の自然

名張の人々は、昔から野や山の自然を大きくこわすことなく、うまく生かしながら生活に利用してきました。そのため、ゆたかな自然が残り、県内の他の地いきにくらべても数少ないめずらしい生き物が多く見られます。

1. ギフチョウ

ギフチョウは日本の本州だけにしか生息していない、世界でもき重なこん虫です。太平洋側の多くの産地は消めつし、三重県では伊賀地方だけにしか生き残っています。

里山にサクラがさき始めるころ、ギフチョウが羽化します。そのすぐたを見ることができる期間は短く、わずかに4月の終わりまでです。そのため「春の女神」とも「春のはかない命」ともよばれます。

里山はおもに農業をする人々の生活のために長い間利用されてきました。炭やまきを作るだけでなく、落ち葉やえだ葉は肥料に、また林のほとりにさく花は切り花として使われました。人の手が入った林は、ギフチョウのぜつ好の生息場所でした。今から60年ほど前までは、名張ではどこにでもいたふ通のチョウだったと思われます。ところがげんざいギフチョウは、名張でもほんの一部の地いきにのみ生き残っているだけです。

なぜギフチョウは、ぜつめつのおそれのあるこん虫になってしまったのでしょうか。なぜ、名張で生き残ることができるのでしょうか。



ソメイヨシノ吸蜜



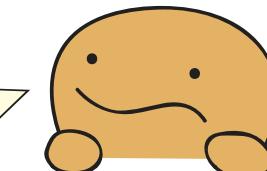
タチツボスミレ吸蜜



交尾



産卵



2. ニッポンハナダカバチ

運動場のすな場にニッポンハナダカバチが集だんでいい学校があります。ぜつめつのおそれがあるおとなしいハチです。黒と青味がかかったクリーム色のしまも様がきれいで、上くちびるを長くつき出しているため、鼻が高く見えるのでこの名があります。

このハチは、草が生えていない広いすな地でないと巣を作りません。ところが、すな地でもすぐに草が生えてくるため、地面が固まって巣がほれなくなります。安定して生活できる場所は、海の近くのすなはまや河原ですが、ぼうさいのためのご岸工事やオフロード車の乗り入れなどですな地がつぶされ、生活



メスに交尾をしようと集まるオスばち



子どもにエサを運んできたメスばち

できる場所が非常に少なくなっています。いつもみなさんに利用されている学校のすな場は草が生えず、すながたっぷりあるためかれらにとってぜつ好みの生息場所といえます。



ニッポンハナダカバチはよう虫の成長にあわせてアブやハエなどのえ物を運びこむ進んだ習せいを持つ「かりバチ」です。

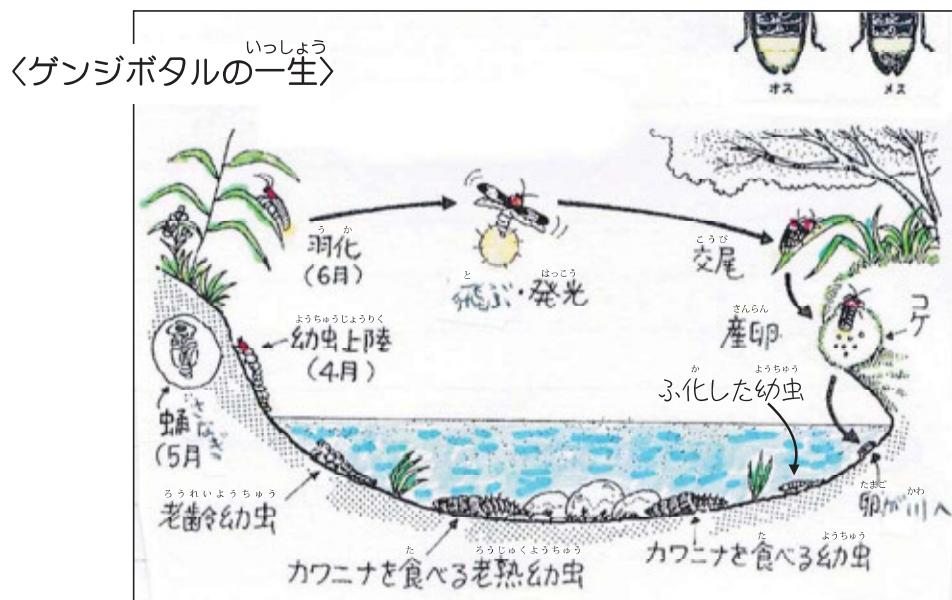
3. ホタルのすむ名張

日本には、世界に自慢できる四季（春・夏・秋・冬）があります。季節ごとに、その時に見られる花・じゅ木などの植物や生物が大きく変わります。その中で、夏の初めの季節をあらわす生物がホタルです。

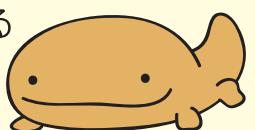
日本には50種類ぐらいのホタルが生息していますが、よく知られている光るホタルは3種類です。特に名張でも多く見かけられる人気のゲンジボタルをみてみましょう。ゲンジボタルは昔から名張では赤目町丈六地区が有名で「丈六ボタル」の名で親しまれており、他の地区のものより少し大きいといわれています。

ひが 光るホタル

種類	よう虫	よう虫のえさ	光りかた	大きさ	光る時期
ゲンジボタル (丈六ボタル)	川	カワニナ	2~3秒間かく 強い	15~18ミリ (15~20ミリ)	5~7月
ヘイケボタル	田んぼ 水路	タニシ 他	不きそく 弱い	9~12ミリ	6~8月
ヒメボタル (金ボタル)	山林	カタツムリ 他	早い点めつ 強い	5~8ミリ	6~7月



ホタルのすむ名張にするためには、人と自然とのバランスが大切です。これからもホタルがすみ続けられるようにするには、どうすればよいでしょう。



ホタルの育成、かんきょうほごへの取り組みについて話を聞きました。

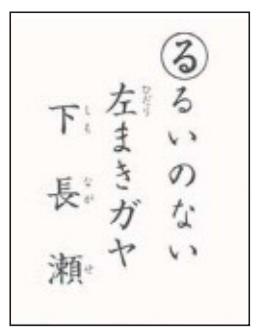


げんざいホタルは、全国でも川の水が美しくなる目安として取り上げられている生物で、文化こん虫ともいわれています。時間はかかるても、自然による育て方により、じゅんすいで元気な丈六ボタルを残したい。そしていざれば、わたしが活動しなくても毎年、自然にホタルが飛び交う名張になることを願っています。ふるさとに残っているいいものを次の世代へ引きつぐのも、わたしたちやみなさんの役目です。

4. ヒダリマキガヤ



長瀬地区にめずらしい大きなカヤの木があります。ふつうのものより種子(たね)が大きく、表面にはまっすぐではなく、左まきのすじも様が入っています。ずっと昔から生き続けている木で、その年れいは350~400年と言われています。



1936(昭和11)年4月に、三重県の天然記念物に指定されました。

この木を大切に守ってこられた人の話によると、昔から「家のたからの木」として大切にされていて、たいへん古い木で弱ってきてるので、冬にはひ料をやりながら、ずっと世話をされているそうです。

【→P20】